

令和4年度（2022年度）学校経営方針

1 学校経営の基本理念

豊かな心をもち、自ら学び、自ら考え、社会の変化に主体的に対応できる子どもの育成をめざす。そのために、子どもたちが主体的に学び、楽しいと感じられるような学校にする。

2 学校教育目標がめざす子ども像

教育目標は、学校で行われる教育活動の究極のねらいを簡潔に示すもので、学校教育のスタートでありゴールでもある。また、全教育活動の中で継続的に活かされ、さらに具現化されるものです。

3 学校経営の基本方針

- (1) 教育公務員としての自覚を持ち、職務を遂行する。
- (2) 自己の健康管理に留意し、明るく朗らかに子どもに接する。
- (3) 教職員の特性を生かした協力指導体制により円滑な学校経営に努め、幼児児童生徒及び保護者の信頼に応える学校にする。
- (4) 家庭との連携・情報共有を丁寧に行う。
- (5) 関係機関との連携を通して本校の教育を充実させる。
- (6) 幼児児童生徒の発達段階に応じて、言語力・思考力・判断力・表現力の育成を図る指導方法の工夫や授業改善に努める。
- (7) 幼児児童生徒が安全で安心して学べる教育環境の整備に努める。

4 目指す教職員

(1) 子ども理解を深める

子どもの心に寄り添い、共感・共有することで子どもが安心できる関係性づくりを心がける。私たちが困ったと感じたことは、子ども自身が困っていることである。「困った子」から「困っている子」へ視点を展開し、子ども理解を深めることが子どもたちの様々な課題に対して適切に対応していくことになる。特別支援教育の充実を実践していく。

(2) 自律的に学ぶ

変化が激しい社会や様々な課題に適切に対応するために教職員としての資質能力の向上に努める。

(3) チーム力向上

学校教育目標の実現に向けて、組織を機能させていく。そのためにも、それぞれの役割を遂行し協働する。学校を活性化させるためにも教育活動全般でPDCAを実行し、業務改善を行う。

5 重点目標に対する努力目標（具体的方策については学部・グループ等で設定）

（1）豊かな言語力と確かな学力の育成

- ① 保有する聴覚や視覚情報を十分に活用する等、子どもの発達段階に応じた学習活動を展開する。
- ② 子どもが「わかる・楽しい」と実感でき、言語力・思考力・判断力・表現力を培う授業を実践するために授業改善の取り組みを継続する。
- ③ 授業のねらいを明確にし、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図る。
- ④ 一人一人のニーズを正確に把握し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成、実施し、評価場面や方法を工夫し、改善の過程を通して的確な支援を行う。
- ⑤ 読む、書く、聞く、話す活動を通して言語力を高め、言語による論理的思考を育てる。

（2）豊かな心と社会性の育成

- ① キャリア教育の推進と充実を図り、各部で身に付けるべき力を明確にして育てる。
- ② 異学年活動や体験活動等での子ども同士のかかわりを通して、認め合い高め合う関係を築く力を育てる。
- ③ 読書に親しみ、読む・書く・話す力や豊かな感性を育てる。

（3）聴覚障害教育のセンター的機能の推進

- ① 乳幼児教育相談、幼稚部教育を充実させ、小学部・中学部・高等部教育につなげる。
- ② 通級指導教室・教育相談での支援機能を整備する。
- ③ 校内体制の整備や医療・保健・福祉等関係機関との連携協力を図り、聴覚障害教育のセンターとしての役割を果たせるように努める。
- ④ 研修会、情報発信等を行い、聴覚障害教育の理解促進を図る。

（4）健康で安全な学校生活の充実

- ① いのちを大切に作る心や人権感覚を育てる。
- ② 子どもの基本的生活習慣の習得と健康・体力への意識を育てる。
- ③ 防犯・防災に対する意識を育てる安全教育を通して、自ら命を守る力を育てる。
- ④ 子どもが安全で安心して生活ができる教育環境を整備する。